

会 議 録

1 会議名

令和7年度第2回板倉区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○自主的な審議（公開）

- ・板倉区高齢者アンケート（案）について
- ・地域フォーラム（仮称）について

○報告事項（公開）

- ・農業経営基盤強化の促進に関する計画「地域計画」について

○その他（公開）

3 開催日時

令和7年5月27日（火）午後6時00分から午後7時15分まで

4 開催場所

板倉区総合事務所 201・202会議室

5 傍聴人の数

3人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・ 委 員：小林会長、植木副会長、秋山委員、新井委員、小川委員、釜田委員、
小林委員、清水委員、庄山委員、中澤委員、深石委員、藤原委員、南
委員、山本委員
- ・ 事務局：板倉区総合事務所 宮下所長、小林次長、名倉次長、高橋建設グルー
プ長、佐藤産業グループ長、長谷川市民生活・福祉グループ長、丸山
教育・文化グループ長、野崎農政班長、宮澤主事

8 発言の内容（要旨）

【小林次長】

- ・ 会議の開会を宣言

【小林会長】

- ・ 挨拶

【小林会長】

- ・ 条例第8条2項の規定により、半数以上の委員の出席を確認。会議の成立を報告。
- ・ 会議録の確認を南委員に依頼。

では、3 自主的な審議（1）「板倉区高齢者アンケート（案）について」、事務局から説明をお願いします。

【小林次長】

資料1のとおり、健康福祉部会と地域防災部会で作成していただいたアンケート項目案について、本日は内容、対象者、実施方法などを協議していただきたい。

【小林会長】

作成に当たっての考え方などをまず釜田委員より説明をお願いしたい。

【釜田委員（健康福祉部座長）】

- ・ 資料1に基づき説明

高齢者の活動状況を把握するためにアンケートを実施する。結果については、行政や関係機関の今後の施策についての課題の洗い出しなどに活用する。

アンケートは地域協議会が行い、各町内会長または老人会の代表者1人、選抜した60歳以上約250人を想定している。高齢者1割といっても、針町内会のような大きな町内会もあれば数人しかいない町内会もあり、それは今後の協議による。紙ベースのほか、回答率を上げるためウェブ回答もできるように考えている。

【小林会長】

続きまして地域防災部会の秋山委員。

【秋山委員（地域防災部会座長）】

アンケートの目的は課題の抽出だと考えるが、アンケートを実施することによって気付きを得られると思う。また、民生委員の項目は、課題であった認知度の向上

につながる可能性があり、有用なアンケートと考える。

【小林会長】

各委員の意見を伺いたい。地域振興部会座長の清水委員どうか。

【清水委員（地域振興部会座長）】

60歳以上を1割程度とした根拠は。

【釜田委員】

町内会の規模を考慮し、最低3人から10人くらいが適当なのではという考えから約1割となった。

【中澤委員】

設問数が多すぎるのではないか。1回ではなく2回実施してもいいと思う。清水委員の質問だが、統計的には1割で十分信頼できるデータが取れるという。アンケート対象者の選抜方法は、町内会長がハンドリングするのかこちらからある程度指示するのか。回答者の年齢が偏らないようバランスを考えてほしい。一度に詰め込まずに、福祉関連と防災で分けた方が、回答者もフォーカスしやすいのではないか。

【山本委員】

対象者について、現代の60歳代は、高齢者というよりミドル世代みたいな捉え方もある。統一した方がいいのではないか。

【植木副会長】

高齢者は70歳以上だという感覚。私も四捨五入にすると70歳だが、老人会の活動に参加していない。高齢者が元気で楽しく生活するためのアンケートだと思うが、結果をどうやって生かすのか、何をしたいのかが不明瞭。それがどう今後の生活に生かされるか、道筋を立てて計画していかないと、地域協議会はアンケートを実施したものの、何もしないし変わらないと、逆に悪評判になる。頑張って作成していただいたが、それができないならやらない方がいい。

【庄山委員】

設問が多い。10問くらいの方が答えやすい。対象者が60歳以上ということも再検討してほしい。

【小林会長】

行政の意見として、小林次長の意見を伺う。

【小林次長】

素案を作られた部会メンバーの熱意に敬意を表す。そのうえで、専門的な文献により客観的に意見を述べさせていただく。まず、アンケートは、1 計画、2 実施、3 分析、4 報告と活用、を事前に吟味しなければ良いアンケートにはならないと言われている。今は計画の段階だが、実施後はアンケート結果を基に分析し、活用役に立てなければならず、それが非常に難しい。

その観点から気になったことが二つある。まず、今回のアンケートは、現状を把握することが目的になっている。これは非常に良いことだが、その現状をどう活用していくか、あらかじめ結果を予測して検証できるようなアンケート項目にする必要がある。

もう一つは、調査の対象者が高齢者のみであり、防災の項目は地域全体のアンケートとしてみなされないのではないか。

提案として、まず少人数の予備調査を実施したらどうか。国勢調査も必ず前年に地域を限定して試験調査を実施している。板倉区に当てはめると、例えば各委員の知人等に協力してもらいアンケートを書いてもらう。30の標本数で実施して、回答が分析できるのか、直接分析に関係のない項目がないのか、項目を減らすことができないのか、ということを検証する。

別の方法としては、高齢者アンケートであるため、社会福祉協議会が実施するすこやかサロンに出向き、手上げ式でその場で回答してもらうといったインタビュー形式のアンケートも有効ではないか。事務局としては、部会で考えていただいた素案に磨きをかけ、実りの多い調査にしてほしいと考えている。

【小林会長】

地域協議会としてのアンケートとなると、地域に対するインパクトも大きい。地域の課題は非常に多いが、まずは課題解決のための設問をして課題を見出し、住民に提案していくというのが一番基本的なスタイルではないか。現在様々な地域で、高齢化、人口減少、過疎化など非常にネガティブな社会環境になっている。板倉区として、健康福祉や防災面で目指すべきところは何か、そこに課題はないか、現状

を把握する必要がある。まずは、制度上の問題、社会福祉活動の課題などをアンケートで洗い出してもらえないか。そこから解決策を住民に示していくことが地域協議会の役割ではないか。

設問の中に老人会や民生委員の項目があるか、老人会は全ての町内会にあるわけではなく、地域の茶の間は50集落のうち12か所程度と聞く。そういう所から課題を見出すよりも、高齢者の生きがいをどう方向付けていったらよいか。老人会や地域の茶の間は、地域によっては歴史があり人間関係の問題もあると聞いている。地域協議会に関わらない方がいいのではないか。

民生委員は今年が改選の年だが、民生委員の小林会長と会った際に、後継者の育成をしてこなかったこともあり人選が困難だろうという話になった。町内会役員との協力体制や緊急時の連携なども課題だと聞いている。このような課題を地域協議会で問題提起していくべきなのではないか。

自主防災については、一人一人の防災意識を高めるためにこういう設問もいいと思うが、そもそも非常災害時におけるルールが各町内会で決まっているのか確認したい。

部会でさらに深掘りしてほしい。各団体と懇談し課題把握を進め、地域協議会としてアンケートの内容を構成していただきたい。

ここまでご苦労されたが、再検討していただけるようお願いをしたい。

【釜田委員】

当初、6月のフォーラムにアンケートを使用したいと聞いていたため、確かに急ぎ過ぎたところがあった。皆さんの意見のとおり、設問数を少なくし、複数回に分けて実施してもよいと思っている。老人クラブは60歳以上という感覚だが、一般的に高齢者は65歳からでそこはあまり気にしなくてもいいかと思った。高齢化率でいう高齢者は65歳ということで割り切った。

確かにアンケート結果の活かし方は煮詰まっていなかった。ただ、福祉施設がほしい、こういうサービスがあったらよい、などと声をあげたところで、予算がない中何もできない。行政でもない我々に何ができるかと考えた結果、アンケートをやることになった。

しかし、課題を方向付けし、どうしたら住民の意見を汲み上げられるのか、少し検討不足のところもあったので、改めて部会で話し合いたい。

【小林会長】

アンケートは、本来は6地区連絡協議会の町内会長や役員との意見交換会に使いたかったが、フォーラムの関係もあり、6月の実施は難しいと感じている。降雪前に、筒方や寺野など2地区で実施できればと思っているので、それまでに検討していただきたい。

【宮下所長】

これだけのアンケートを作るまでに、健康福祉部会の皆さんは本当に苦労されたことと思う。提案だが、まずは実態を把握するためにアンケートを実施し、その結果と分析に基づいて、さらに深掘りしたアンケートを取るような方法もあるかと思う。両部会の座長と事務局を含めて、スケジュール的なものやアンケート内容、やり方を協議して、もう一度よく整理してから各部会に諮るのがいいのではないかな。

【植木副会長】

フォーラムの開催時期にもよるが、その後にアンケートを実施した方がいいのではないかな。

【小林会長】

アンケートについての協議は以上とし、続いて（2）「地域フォーラム（仮称）について」事務局から説明をお願いします。

【小林次長】

・資料「地区別まちづくりワークショップ」に基づき説明

藤山所長からは、話し合いの前段階として、板倉区の場合は町内会長が非常に重要なポストになっているので、町内会長から会長業務の実態について調査したいという話があった。今後のスケジュールは、現在、創造行政研究所で板倉区の将来人口を予測しており、同時に、町内会長へのヒアリングまたは面接などで、町内会の実態を把握するということである。それを基に、8月には地域住民によるワークショップを開始する。その後、話し合いを継続して、今年度中に成果発表ができるようなスケジュールで進めている。

【小林会長】

質問や意見はあるか。

【中澤委員】

8月にフォーラムを開催するとのことだが、テーマが極めて大事になってくと思う。大島区は定住をテーマにしてワークショップを開いているが、板倉区は何を求めてこのワークショップを実施するのか整理しないと、スケジュールは決まっても議論が進んでいかないのではないか。

【小林次長】

テーマの重要性は認識している。前回までの地域協議会に基づくと、「コミュニティの維持」、これが大きなテーマになるという声が多かった。今日でテーマが決まるわけではないが、段階を迫いながら委員の方々の意見を吸い上げて、テーマを決めていきたい。

【中澤委員】

テーマはこれから協議をしながら決めていくとして、誰をどのように集めるかという方法論も皆さんとオーソライズしないと、いざ開催したら誰も来なくてフォーラムにならないという事態も生じかねない。フォーラムを具体的に進める設計図のようなものがあるといい。

【小林会長】

まだ発表まではいかないのだが、ワークショップのメンバーは、私達と事務局とで検討している。できれば若い人から多く入っていただき、その中に地域協議会委員の何人かも入るような形をとってワークショップを進め、今年度中に報告会ができるような形を作りたい。どういうメンバーがいいのか、今、事務局から検討していただいているが、ガイドラインについて発表できる段階になったら、皆さんにもご報告させていただく。

【小林次長】

皆様のフォーラムに対する概念は、もっと大規模なものを想像されているのかもしれない。いずれにしても地域フォーラムやワークショップ、そしてアンケートも話し合いの一つの材料になっていくと思う。そういったものを、地域協議会として

は、上手くつなぎ合わせて一つの方向で進めていくためのパーツにしていきたい。
とりあえず今は、非常に学術的なワークショップができる局面に来ているので、一つの好材料を皆様に与えられるように進めていきたい。

【小林会長】

詳細が固まり次第ご報告させていただく。

次に、4 報告事項「農業経営基盤強化の促進に関する地域計画について」事務局から説明をお願いします。

【佐藤産業グループ長】

この地域計画については、昨年6月の地域協議会において、今後地域と話し合いを行い、作成に取り組んでいく旨を説明したが、この度、計画がまとまったので報告させていただく。

・資料2-1、2-2、2-3に基づき説明

板倉区の計画も、農業の課題や将来目標、地域農業を担っていく方などが示されたが、資料の通り、目標地図を作成して見える化したことにより、農地の分散化が多く見受けられた。地域計画については、一度作って終わりではなく、今後も見直しを行い、内容をブラッシュアップ、改良していくものであるため、年に1回各地域の中心的な担い手を集めた話し合いを行う。本計画の記載内容を見直し、担い手間の農事集約に向けた協議等を行っていきたい。

【小林会長】

質問はあるか。

【秋山委員】

板倉区は農業が盛んな区だと認識しているが、専業農家、兼業農家の割合はどれくらいか。

【野崎農政班長】

現状では、専業、兼業というような調査自体もなく不明だが、板倉区の認定農業者の数が37で、その中でも大規模農家は、穂海農耕や田中産業になると思う。個別形態として認定農業者になっている方もいるが専業でやっているかは不明。どちらかというと兼業の方が多いという感覚。資料2-3の図面を見ていただくと、オ

レンジ色や紺色でまとまっている所が農事組合法人で、集落ごとに法人があるところが大体まとまっている。網目で転在しているところは、個別経営体である。高齢化の関係で、担い手もどんどん少なくなっている。一方で、担い手にどんどん農地が集まってきているということで、やはり担い手としても農地が点在しているというのが非常にネックになっていて、作業効率を考えると、農業者が農地を集約していかないといけないという目的が地域計画である。

板倉区では、農地利用調整協議会をこの3月に立ち上げ、担い手同士で、誰がやるか、なるべく農地をまとめていくというようなことを始めている。また、今後なるべく農業者が耕作しやすいような形で農地を集約していきたいと考えている。

【植木副会長】

農地の集約は効率化につながると思うが、今、小作料も全部同じ金額にしようという話が出ている。1反1万円という話になって、米が高くなっているのにどうして逆行するのかと思う。やはり市の方で1万円にするという提案をされたのか。

【野崎班長】

今年1月、農業委員会の方で、平場については1万円と出していただいた。やはり農地を集約していくには、土地によって値段が変わると、受け手が困ってしまうというようなこともあり、できる限り集約していくという観点からすると、なるべく借り受けの値段をできる限り統一することが必要。ただ、ほ場整備された田だとか、未整備田だとか、水のかかり具合のいいところも悪いところもあって、いろいろ条件があると思うので、少し差をつけながら、一定の目安みたいなものを農地利用調整協議会の中でいろいろと調節しながら考えていきたい。

【植木副会長】

ぜひ考えていただきたい。お米の値段は2倍となっているのに、小作料は半分くらいになる。

【山本委員】

資料2-1の2ページに、各区での地域懇談会での主な意見・課題が出ているが、対象者やいつ頃の懇談会を参考にして作られたのか説明してほしい。

【野崎班長】

こちらに記載されている主な意見は、どこの区の意見というわけではない。ただ、板倉区に関しては、第1回懇談会を去年の7月11日に実施し、その後、地域ごとに実際の農業者や耕作者を集め、7月22日から1週間かけて個別懇談会を実施した。それを取りまとめた上、12月10日に第2回懇談会を実施したが、その時は認定農業者や農業委員会が実施した数年前の農地利用状況調査の中で、今後拡大見込みだった方とやめる方について農家組合長などに案内した。その中で特に意見はなかった。

【小林会長】

5 その他、事務局から説明をお願いする。

【小林次長】

4 区合同研修会は7月11日15時から、はーとぴあ中郷で開催する。地域政策課が地域自治推進プロジェクトの説明をすることになっている。その際に使用する資料を本日配付させていただくので、当日持参願いたい。

次回の地域協議会は、予定していた案件が先延ばしされたこと、7月初旬に4区合同研修会有ること、アンケート調査の準備やワークショップに関連した町内会長ヒアリングなどの準備が必要と考え、6月は開催しないことでよいか。

【小林会長】

事務局から説明があったとおり、当初予定した6月の案件が延期になったので6月は開催しない予定だが、皆さんに諮る案件が出た場合は、私と副会長、事務局で相談し、皆様にご連絡させていただく。

また、4区合同研修会での地域自治推進プロジェクトについては、以前私からも報告したとおりだが、資料を見ていただき不明な点があれば、当日、地域政策課に質問するか、事前に事務局に問い合わせしてほしい。

他に何かあるか。

【中澤委員】

5月31日に開催するヤワヤワマーケットのボランティアが不足しているので、ご協力いただけるとありがたい。

【新井委員】

6月1日にふきんとまつりを旧筒方小学校で開催するが、先日も地元で草刈り等を行って準備を整えた。地元が思いを込めて実施するのでご来場いただきたい。

【宮下所長】

6月8日、上越市消防団板倉方面隊の総合訓練があり、地域の宝にも認定されているはしご登りの演技をするのでご覧いただきたい。

また、寺野地区の地域おこし協力隊の福井さんが3年の任期を終え5月8日に退職されたが、引き続き寺野地区に在住し、やすらぎ荘で勤務しているのでご承知おきいただきたい。

前回、自転車まつりがヒルクライムとライドに分かれて、二つの実行委員会で実施すると報告したが、いわゆる里山ライドについては、上越サイクルフェスタ実行委員会という名称で、メンバーは自転車愛好家の皆さんが中心になっている。5月10日からエントリー開始になった。こちらについては、地域独自の予算事業など行政と一切関わっていない。光ヶ原高原ヒルクライムの方は、今、ホームページの整理をしながら6月中旬からエントリーを開始する予定。開催日は、ヒルクライムが9月27日の土曜日、里山ライドが9月28日の日曜日である。

【小林会長】

他にあるか。

(なし)

【植木副会長】

- ・閉会の挨拶

【小林次長】

これで、第2回板倉区地域協議会を終了する。

9 問合せ先

板倉区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL：0255－78－2141（内線123）

MAIL：itakura-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。